

公共交通情報のオープンデータ配信による コミュニティバス利用促進

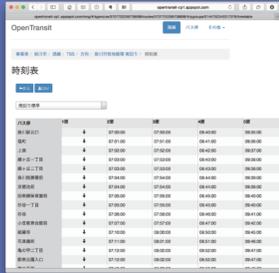
伊藤 昌毅（東京大学 生産技術研究所）、瀬崎 薫（東京大学 空間情報科学研究センター）、
杉本 直也（静岡県）、大石 康晴（AALT 株式会社）

この取り組みでは、OpenTrans.it という Web システムを開発し、静岡県の 3 自治体のコミュニティバスの路線図や時刻表データをオープンデータとして配信した。また、乗降センサーを接続したスマートフォンを用いたバス車載機器を開発し、バスの位置情報とバス停ごとの乗降客数もリアルタイムに配信した。データは GTFS という世界的な標準形式で提供しており、乗換案内サービスへ取り込めるほか、それを利用したアプリケーション開発が容易に行える。この活用を進めるために、地域の課題解決に関心を持つ開発者を集めたハッカソンを開催し、市民だけでなく全国からの参加者がコミュニティバスデータを活用したアイデアやアプリの試作を行った。

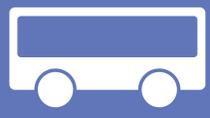


時刻表情報、路線図情報

バス停位置や路線図、時刻表などを Web インフェースより入力。

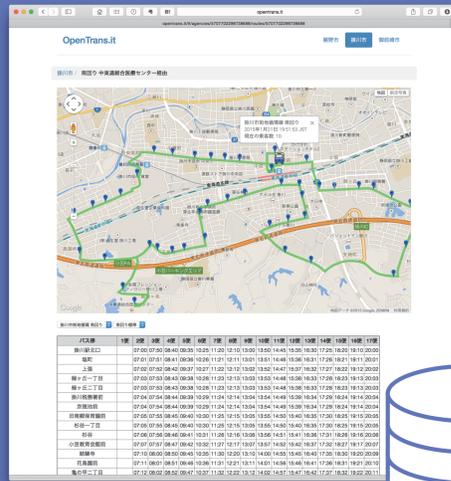


リアルタイム位置・乗降人数



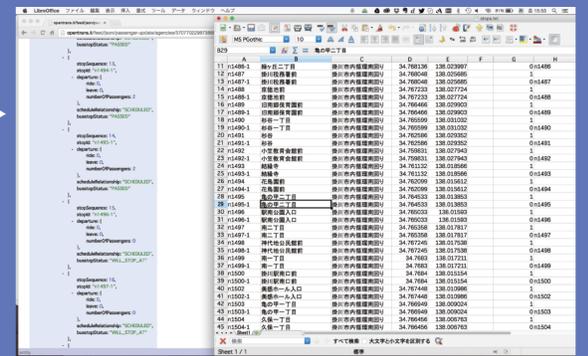
車内に設置したスマートフォンと乗降センサーより、位置情報とバス停ごとの乗降客数を送信。

OpenTrans.it



公共交通データを預かり配信するシステムを開発。クラウドを活用しているため複数のコミュニティバスへのサービス提供が可能。

GTFS 形式によるオープンデータ配信



GTFS (General Transit Feed Specification) という、世界中で利用されている公共交通データの標準形式でデータ配信。交通データを使ったアプリ開発や地域交通データの分析が誰にでも可能に。

ハッカソンで地域の課題を解決

地域の課題解決に興味のある開発者を集め、合宿形式でサービスを開発するハッカソンというイベントを開催。バスの利便性を高めたり、バスの不便さを楽しんでしまうようなサービスのアイデアを話し合った。



GTFS だから世界へ発信

世界で利用される GTFS 形式で発信したことで、世界の公共交通マップサービス TRAVIC への掲載や、乗換案内サービスへの取り込みが可能になるなど、既存の様々なサービスでの地域交通データの活用が容易に。オープンデータなので、ライセンスの点でも誰にとっても使いやすく。

